

別紙様式 1

令和 6 年度音戸中学校区研究推進計画

校番 28 呉市立波多見小学校

校長名 蒲原 尚博

1 学校教育目標

夢をもち、自ら動き、たくましく生活する児童の育成

2 目指す児童生徒像

ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	協働的に関わる力	地域の一員として関わる力
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて適切な調べ方を選択して集めた情報を批判的に分析・整理して、効果的に表現することができる。	様々なコミュニケーションを通して、思いや考えを認め合いながら協働して課題を解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、地域社会に参画しようとする。
中期		目的に応じて調べ方を工夫し、収集した情報を目的意識や相手意識をもちながら分析、整理して、表現することができる。	コミュニケーションを通して、互いの良さを生かし、協働して解決することができる。	呉・音戸の一員として課題の解決に向けて、自分ができるところを考え、実践しようとする。
前期		多様な調べ方を知り、収集した情報を比較したり、関係付けたりしながら分析して、整理することができる。	他者とコミュニケーションをとりながら、協働して、課題を解決することができる。	学んだことを自分の生活や地域（音戸）のために生かそうとする。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和5年度は「根拠をもとに思考・判断・表現する力」を鍛える視点をもちながら授業実践に取り組んだ。音戸中学校区授業モデルをもとに児童生徒が主体的に考える授業づくりを行った。これにより、授業の目指す方向について教職員で共通認識を深めることができた。また、児童生徒の自己肯定感や協働性を高める小小・小中連携を計画的に行った。コロナ禍で減っていた対面交流などを積極的に実施することができた。

しかし、全国学力・学習定着状況調査の結果を分析したところ、本中学校区では、「問いの意図をつかむこと」、「資料をもとに自分の考えをもつ（書く）こと」に課題があることが分かった。要因として、音戸中学校区授業モデルをもとにした研究授業が日々の授業に生かし切れていないことが考えられる。

令和6年度も、音戸中学校区授業モデルをもとに児童生徒が主体的に考える授業づくりを行う。その際、「考えをもつ」ことに重点を置く。また、引き続き1分間スピーチを行うことを通し、自己表現力を伸ばす。さらに、小小・小中連携を計画的に行い、自己肯定感や協働性を高める。これらの取組を通して小中全ての教職員が連携して音戸中学校区9年間の学びを作っている意識を共有できるようにしていきたい。

(3) 令和6年度研究仮説

生活指導部会及び生活向上部会の取組を基盤とし、小中教職員の合同研修を計画的に設定し（中学校区の課題の共有／めざすゴールの共有／授業モデルの共有／授業改善の視点の共有／各部会での分析／単元開発および提案授業）、組織的に授業改善の取組を進めていくことにより主体的に学び合う児童生徒が育成されるだろう。

5 研究内容

<学力向上部会>

① 児童生徒が主体的に学習に参加できる授業づくり

音戸中学校区授業モデル（別途添付）をもとに、まずは自分の考えをもち、次に集団に広げ、深め、最後に自分の考えを再構成する授業を小中それぞれ実践する。また、研究授業では、学びの変革授業参観シートを活用し、思考場面について協議できるようにする。さらに、個の見取りを深め、一人一人へのアプローチしていく授業づくりを行う。

② スピーチの取組

一昨年度から小中で取り組んだスピーチを継続して行う。即興で話したり、新聞をまとめたり、キーワードをつかったりするなど、各学年に合わせた取組を実践し、自己表現力を高める。

③ 生活科・総合的な学習の時間の充実

生活科・総合的な学習の時間では、地域の環境や人材を積極的に活用し、児童生徒が地域に出て行く単元を増やす。また、児童生徒の資質能力が発揮された具体の姿を思い浮かべ、実態に合わせたカリキュラムマップの見直しを行う。単元を通じて、目的や相手を意識して学習に取り組んでいく。

<生活指導部会>

④ 児童生徒の自己肯定感を高める活動の充実

昨年度に引き続き、生徒指導の視点をそろえて小中が同じ目線で児童生徒を指導していく。そのために、中学校区内で評価方法や取り組み内容などの連携や共有を継続して行う。また、児童生徒発信の活動の更なる充実を目指し、立案や計画を行いやすい環境を整える。

<生活向上部会>

⑤ 基本的な生活習慣の定着とメディアコントロール

早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロールの4項目の取組を定期的実施する。その中で、メディアコントロールを重点課題とし、メディアとの上手な付き合い方について、児童生徒、保護者に提案する。また、家庭学習の時間とメディア使用時間は相関関係にあると考えられるため、学校全体の課題として組織的に取り組み、児童生徒のメディアリテラシーの向上を図る。

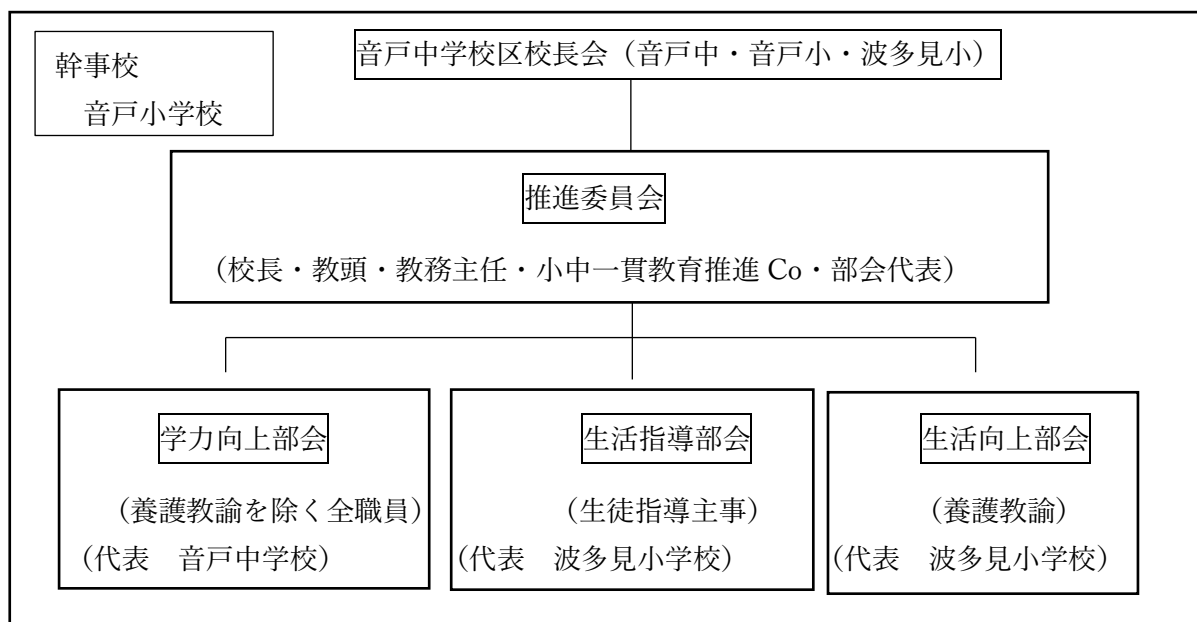
6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 思考力・判断力・表現力は育ったか。	小：学期末テスト (国・算)	平均点	—	1～6年80%
	中：学年評定	思考・判断・表現の 観点がB以上の生徒 の割合 (国・数)	中1 — 中2 61% 中3 52%	昨年度 +10%
	1分間スピーチ アンケート	児童生徒の肯定的評 価の割合	—	80%
① 自己肯定感が高まったか。	児童生徒 アンケート	児童生徒の 肯定的評価の割合	1～6年84% 7～9年65%	1～6年85% 7～9年70%
② 生活リズムの確立はなされたか。	生活リズムカード	各学年の目標を達成 している児童生徒の 割合	—	80%

7 推進体制

(1) 研究構想図 (別途作成)

(2) 推進組織



(3) 一部担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (小→小, 中→小)

- ・音戸小と波多見小の同学年交流 (随時) (小→小)
- ・小学校第6学年 総合的な学習の時間 (3学期実施) (中→小)

イ 小学校教科担任制等

- ・波多見小 第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (音楽)
第3学年 (図工)
- ・音戸小 第1学年, 第2学年, 第3学年, 第4学年, 第5学年,
第6学年 (音楽)
第3学年, 第4学年, 第5学年, 第6学年 (図画工作)
第5学年, 第6学年 (家庭科)

8 推進計画

小中合同研修会の計画

- 4月 推進委員会
(校長・教頭・教務主任・小中一貫教育推進Co・部会代表)
- 5月24日(金) 総会 (中学校区の課題及び/めざすゴールの共有)
(会場 音戸小学校)
- 7月10日(水) 音戸中学校 授業研究会 (教科) (モデル授業)
- 8月 全国学力・学習状況調査の分析
スクールカウンセラー合同研修
小小連携 打合せ
- 9月 音戸中学校 授業研究会
- 10月31日(木) 波多見小学校 授業研究会
- 11月 音戸小学校 授業研究会
- 1月 各部会で成果と課題を分析
小中一貫教育推進コーディネーター会
- 2月14日(金) 総会
(会場 音戸小学校)
- 3月 小中一貫教育推進コーディネーター会

※下線部の研修は全員参加

【音戸中学校区 教育目標】ふるさとを愛し，自律できる児童生徒の育成

【波多見小学校学校教育目標】

夢をもち 自ら動き たくましく生活する 児童の育成

【音戸中学校区 研究主題】

主体的に学び合う児童生徒の育成



学力向上部会

◆ 「思考力・判断力・表現力」の向上

単元・授業づくり

- ・ 考える授業
（「考えたくなる課題設定」「考え，表出する場」「考えの変容を自覚させる工夫」）
- ・ 主体的・協働的に学ぶ学習集団づくり
- ・ 課題発見・解決学習
（生活科・総合的な学習の時間）
- ・ 表現力を高めるためのスピーチ
- ・ 個に応じた指導

生活指導部会

◆ 自尊感情・自己有用感の育成

生活向上部会

◆ 主体的に学習に向かう土台づくり

生徒指導の三機能

- ・ あいさつ運動
- ・ 縦割り班活動
- ・ 地域学習

元気アップ週間

- ・ 早寝早起き 朝ごはん
- ・ メディアコントロール

